

企業動向

αシクロデキストリン「CAVAMAX」**腸内有用菌増やす機能を確認**

難消化性の水溶性食物纖維として、糖や脂肪の吸収抑制をはじめ、複数の健康増進作用が見出されているαシクロデキストリン(αCD)。シクロデキストリンは、同社のαCD「CAVAMAX W6 Food」について、バイオティクスとして機能性研究に入れており、最近の研究ではαCDが腸内善玉菌を増やすとともに、日和見菌のバクテロイデス菌も増やし、抗メタボ機能する可能性を確認している。近年、腸内細菌が動脈硬化に関する期待があるといふ。

このため、バクテロイデス菌を増やすことで、動脈硬化を抑制することが期待できるといふ。

そこで、同社は動物試験で、低脂肪食摂取群と同程度だったことも確認した。

高脂肪食摂取群、αCD摂取群に分け、バクテロイデス菌を測定。その結果、αCD並行摂取群は、高脂

肪摂取群と比べても、バクテロイデス菌が顕著に増加することを確認した。実際に、動脈硬化の原因となる血管の病変数を調べたところ、αCD摂取群と高脂肪食の並行摂取群は、高脂肪食摂取群と同程度だったことも確認した。

さるに、αCDには腸内細菌の一種で、糖代謝を改善する働きを持つプロビオテラ菌を増やす作用もあるという。このため、αCDは糖代謝改善にも機能する可能性が示されている。

このほか、同社はαCDについて、機能性表示食品の機能性関与成分としての利用を目指してお

り、現在、独自に取りまとめた研究レビューと自社最終商品で、消費者庁に申請書類を提出している。想定する機能表示は「食後血糖値の上昇抑制」で、1日摂取目安量は5gとした。同社では受理実績を作ることで、届出サポートにも乗り出

す考え方。